

WTIの熱実測サービス

部品の温度は正しく測定しないと
誤った判断をまねくことがあります。

【ケース1】

熱電対を貼り付けて測定 : 70°C

正しく実測した部品の温度 : **90°C**



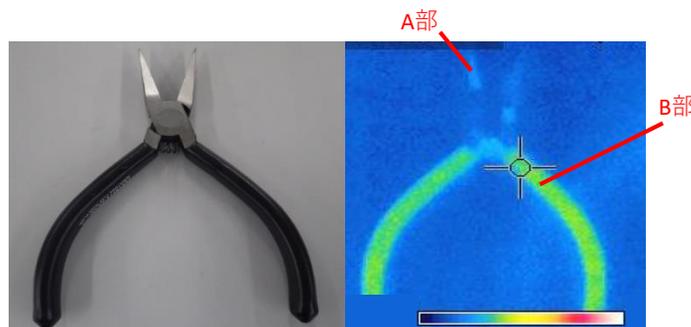
正しく測定するポイントとは...?

⇒詳細は裏面。

【ケース2】

サーモビューワで測定 : A部 45°C、B部 60°C

正しく実測した温度 : **A部 60°C**、B部 60°C



正しく測定するポイントとは...?

⇒詳細は裏面。

半導体の温度を正しく実測できる特許を保有しており、
電子部品から室内空間の熱実測まで対応いたします。

部品の温度の経時変化や、熱抵抗などを把握したい場合も、
お気軽にご相談ください。

■ お問い合わせ先 ■

株式会社Wave Technology URL : <https://www.wti.jp>

本社 : 〒666-0024 兵庫県川西市久代3丁目13番21号

営業部 : TEL 072-758-2938

Wave Technologyの
ウェブサイト

WTI社

検索

メールでのお問い合わせ先 : tech@wti.jp

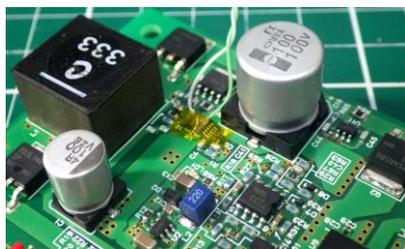
【ケース1】

購入しやすいだけで選んだ熱電対線を温度測定対象物に取り付けると、熱電対線が放熱先となって測定対象の温度を下げてしまうことがあります。

熱電対を貼り付けて部品温度を測定した。

- ・測定結果：70℃
(測定手法が適切でなく誤った温度)
- ・実際は...：90℃

使用する熱電対線が対象物温度に影響を与えるか否かの判断が重要になります。
また、熱電対線の貼り付け方にもコツがあります。

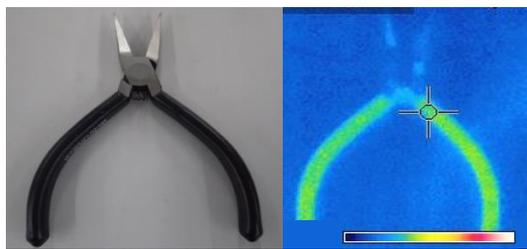


【ケース2】

サーモビューワの測定温度は放射率設定の影響を強く受けます。WEBで検索した放射率を設定すると、測定される温度は正しくないことがあります。

- サーモビューワで測定：A部 45℃、B部 60℃
(A部は測定手法が適切でなく誤った温度)
正しく実測した温度：A部 60℃、B部 60℃

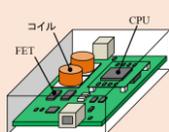
サーモビューワの測定原理をおさえて、正しい放射率を設定するだけでなく反射光や測定角度等も意識した測定が重要です。



熱実測サービスについて

お客様で準備いただくもの

- ・測定サンプル
- ・測定サンプル動作に必要な周辺機器
- ・測定仕様（動作条件、測定箇所、測定環境）



成果物

- ・報告書（実測結果、考察）



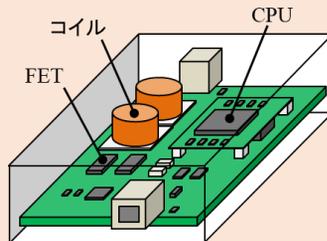
費用イメージ

例1 お客様にご指定頂いた実装部品の飽和温度を測定します。

内容：温度測定：5箇所 測定回数：1回

費用：20万円

納期：試供品到着から1週間



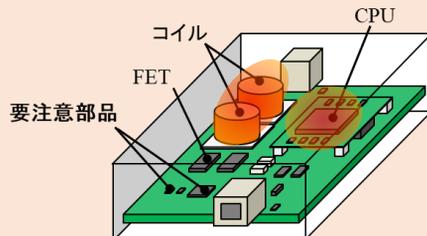
代表部品のみ温度測定

例2 製品内で温度上昇しやすい部品を事前確認し、それらの過渡温度を測定します。

内容：温度測定：15箇所 測定回数：3回(負荷条件を変える等)

費用：50万円

納期：試供品到着から3週間



代表部品に加えて、**要注意部品**も温度測定